

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年4月14日

**【四半期会計期間】** 第45期第2四半期(自平成26年12月1日至平成27年2月28日)

**【会社名】** 株式会社ブラップジャパン

**【英訳名】** PRAP Japan, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 杉田 敏

**【本店の所在の場所】** 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

**【電話番号】** 03(4580)9111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理本部長 泉 隆

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

**【電話番号】** 03(4580)9111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理本部長 泉 隆

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間		自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日	自 平成26年9月1日 至 平成27年2月28日	自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日
売上高	(百万円)	2,645	2,672	5,455
経常利益	(百万円)	254	365	657
四半期(当期)純利益	(百万円)	87	186	320
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	152	287	396
純資産額	(百万円)	2,674	3,037	2,865
総資産額	(百万円)	3,894	4,352	4,276
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	21.77	46.55	80.15
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		-	-
自己資本比率	(%)	65.7	66.4	65.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	31	325	254
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	22	42	19
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	143	173	142
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,870	2,238	2,081

回次		第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年12月1日 至 平成26年2月28日	自 平成26年12月1日 至 平成27年2月28日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	19.07	32.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。  
また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

また、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、円安・株高傾向を背景にインバウンド消費の拡大なども影響し、景気回復の兆しも見込まれましたが、個人消費の伸び悩み、物価上昇懸念など、依然として先行きは不透明な状況といえます。

当社グループにおきましては、新規問い合わせはヘルスケア分野を中心とした引き合いが多く、企業のマーケティング活動をサポートするマーケティングPR案件を数多く獲得し、受注件数は堅調に推移しました。既存顧客においては、新製品の記者発表会サポートやヘルスケア分野における啓発プロジェクトなど、短期間に集中した単発プロジェクトを複数獲得しています。そのほか、期初に想定していなかった危機管理広報コンサルティング案件の受注も営業利益に寄与しています。

また、企業におけるソーシャルリスク対策への関心は依然として高く、前期発表した新サービス「ソーシャルリスク対策支援プログラム」の引き合いも増加傾向にあります。併せてセミナー講師等の依頼も多く、新たな顧客層の開拓に努め、受注拡大に向けた営業活動に取り組んでいます。

中国の連結子会社におきましては、既存顧客からの新規プロジェクトを複数獲得したほか、年末や旧正月に向けた日本への中国人観光客をターゲットとしたPR案件も受注しました。依然、ニーズの高い危機管理広報分野においては、既存顧客からの引き合いも多く、危機管理広報マニュアル作成依頼などを複数受注しています。また、中国現地法人2社のサービス体制の合理化により営業利益率も改善し、業績は堅調に推移しています。

また、前第2四半期連結累計期間では、一時的に発生した当社の創業者で元代表取締役会長の故矢島尚の役員退職慰労金の功績加算分を特別損失として計上しています。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,672百万円（前年同四半期比1.0%増）、営業利益は368百万円（前年同四半期比45.6%増）、経常利益は365百万円（前年同四半期比43.2%増）、四半期純利益は186百万円（前年同四半期比113.8%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の主なクライアントとして、新規リテナークライアントは、食品メーカー、IT、オンラインゲーム会社、製薬会社、デベロッパーなどの企業を獲得しました。新規および既存顧客のプロジェクト業務としては、自動車、製薬会社、消費材メーカー、精密機器メーカーなどの企業を多数獲得しています。そのほか、自動車関連会社の企業イベント制作や、鉄道会社の周年記念関連の制作、ヘルスケア企業の社内報作成など、多数のコミュニケーションツールの制作を受注しています。

当第2四半期連結累計期間における主な勘定科目等の増減の状況は次のとおりです。

(売上高)

当第2四半期連結累計期間において売上高は2,672百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ27百万円(1.0%)の増収となりました。

これは、主に中国子会社1社において前年同四半期連結累計期間に実施した大型イベントが、当第2四半期連結累計期間では発生しなかったことにより大幅な減収となったものの、当社単体の売上高は108百万円(7.5%)の増収となったことに加え、既存の連結子会社2社についても増収となったことによるものです。

(営業利益)

営業利益は、368百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ115百万円(45.6%)の増益となりました。これは、外注費等の売上原価が前年同四半期連結累計期間に比べ50百万円(2.6%)減少したことや、販売費及び一般管理費が前年同四半期連結累計期間に比べ37百万円(8.9%)減少したことに加え、売上高が前年同四半期連結累計期間より27百万円(1.0%)の増収となったことによるものです。

(経常利益)

経常利益は、365百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ110百万円(43.2%)の増益となりました。為替変動の影響により為替差損が4百万円増加したものの、営業利益が115百万円(45.6%)の増益となったことによるものです。

(四半期純利益)

四半期純利益は、186百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ99百万円(113.8%)の増益となりました。これは、経常利益が110百万円(43.2%)の増益となったことに加え、前年同四半期連結累計期間に計上された特別損失の役員退職慰労金35百万円などが当第2四半期連結累計期間では計上されなかったことによるものです。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、3,646百万円と前連結会計年度末に比べ42百万円の増加となりました。これは、現金及び預金161百万円、たな卸資産45百万円、前払費用11百万円が増加したものの、債権回収に伴う受取手形及び売掛金183百万円が減少したことが主な要因であります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、705百万円と前連結会計年度末に比べ33百万円の増加となりました。これは、繰延税金資産が3百万円減少したものの、投資有価証券10百万円、差入保証金が27百万円増加したことが主な要因であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、1,013百万円と前連結会計年度末に比べ84百万円の減少となりました。これは、未払金84百万円、未払法人税等39百万円が増加したものの、支払手形及び買掛金102百万円、未払配当金53百万円、賞与引当金30百万円が減少したことが主な要因であります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、301百万円と前連結会計年度末に比べ11百万円の減少となりました。これは、退職給付に係る負債が1百万円増加したものの、役員退職慰労引当金が12百万円減少したことが主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、3,037百万円と前連結会計年度末に比べ172百万円の増加となりました。これは、利益剰余金70百万円、為替換算調整勘定28百万円、少数株主持分64百万円が増加したことが主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、法人税等の支払額99百万円、仕入債務の減少額124百万円、配当金の支払額115百万円等の要因により減少したものの、税金等調整前四半期純利益364百万円、売上債権の減少額217百万円等の要因により、前第2四半期連結会計期間末に比べ368百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末は2,238百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、325百万円(前年同四半期は得られた資金31百万円)となりました。これは、主に法人税等の支払額99百万円、仕入債務の減少額124百万円、賞与引当金の減少額30百万円、役員退職慰労引当金の減少額12百万円が生じたものの、税金等調整前四半期純利益364百万円、売上債権の減少額217百万円が生じたことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、主に貸付金の回収による収入1百万円が生じたものの、敷金及び保証金の差入による支出30百万円、定期預金の預入による支出7百万円、有形固定資産の取得による支出6百万円が生じたことにより、42百万円(前年同四半期は使用した資金22百万円)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動に使用した資金は、主に配当金の支払額115百万円、少数株主に対する配当金の支払額57百万円により、173百万円(前年同四半期は使用した資金143百万円)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,716,000
計	18,716,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年4月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,679,010	4,679,010	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	4,679,010	4,679,010		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年12月1日～ 平成27年2月28日		4,679,010		470		374

(6) 【大株主の状況】

平成27年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
キャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ピーヴィー (常任代理人 オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン合同会社)	オランダ王国ロッテルダム、ディーイー 3072、ウィルヘルミナブレイン10  (東京都渋谷区恵比寿4-20-3)	935	20.00
矢島 婦美子	川崎市麻生区	885	18.92
野村 しのぶ	東京都渋谷区	394	8.42
矢島 さやか	川崎市麻生区	367	7.85
泉 隆	東京都練馬区	230	4.92
杉田 敏	東京都豊島区	140	2.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	80	1.72
ブラップジャパン従業員持株会	東京都港区赤坂1-12-32	64	1.38
小山 純子	東京都世田谷区	50	1.07
三菱UFJキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋1-7-17	45	0.97
計		3,193	68.24

(注) 当社は、自己株式682,726株(14.59%)を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式682,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,995,600	39,956	
単元未満株式	普通株式 710		
発行済株式総数	4,679,010		
総株主の議決権		39,956	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が26株含まれております。

【自己株式等】

平成27年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブラップジャパン	東京都港区赤坂 1-12-32	682,700		682,700	14.59
計		682,700		682,700	14.59

(注) 上記の表は、完全議決権株式(自己株式等)の明細であります。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年12月1日から平成27年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年 2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,354	2,516
受取手形及び売掛金	969	786
有価証券	23	26
たな卸資産	1 135	1 180
繰延税金資産	54	53
その他	67	84
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	3,603	3,646
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	69	64
その他（純額）	21	23
有形固定資産合計	91	87
無形固定資産		
のれん	19	16
借地権	0	0
ソフトウェア	8	7
無形固定資産合計	29	24
投資その他の資産		
投資有価証券	119	129
差入保証金	249	277
繰延税金資産	125	122
その他	56	64
投資その他の資産合計	552	593
固定資産合計	672	705
資産合計	4,276	4,352
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	496	393
未払法人税等	90	129
未成業務受入金	120	100
賞与引当金	85	55
その他	305	335
流動負債合計	1,098	1,013
固定負債		
役員退職慰労引当金	169	156
退職給付に係る負債	143	144
その他	0	0
固定負債合計	313	301
負債合計	1,411	1,315

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	470	470
資本剰余金	374	374
利益剰余金	2,360	2,430
自己株式	434	434
株主資本合計	2,771	2,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10	1
為替換算調整勘定	22	50
その他の包括利益累計額合計	11	48
少数株主持分	81	146
純資産合計	2,865	3,037
負債純資産合計	4,276	4,352

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
売上高	2,645	2,672
売上原価	1,972	1,921
売上総利益	672	750
販売費及び一般管理費	1 420	1 382
営業利益	252	368
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	1	-
その他	0	1
営業外収益合計	2	2
営業外費用		
為替差損	-	4
出資金運用損	0	0
その他	0	-
営業外費用合計	0	5
経常利益	254	365
特別損失		
有形固定資産除却損	2 0	2 0
役員退職慰労金	35	-
訴訟関連損失	10	-
特別損失合計	45	0
税金等調整前四半期純利益	209	364
法人税、住民税及び事業税	85	132
法人税等合計	85	132
少数株主損益調整前四半期純利益	123	231
少数株主利益	36	45
四半期純利益	87	186

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	123	231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	8
為替換算調整勘定	25	47
その他の包括利益合計	29	55
四半期包括利益	152	287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	105	223
少数株主に係る四半期包括利益	47	64

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	209	364
減価償却費	11	11
のれん償却額	7	2
退職給付引当金の増減額(は減少)	0	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	169	12
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	1
賞与引当金の増減額(は減少)	11	30
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	0
受取利息及び受取配当金	0	0
固定資産除却損	0	0
売上債権の増減額(は増加)	220	217
たな卸資産の増減額(は増加)	41	36
仕入債務の増減額(は減少)	98	124
その他	45	29
小計	169	424
利息及び配当金の受取額	0	0
法人税等の支払額	139	99
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>31</b>	<b>325</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	7	7
有価証券の取得による支出	0	0
有形固定資産の取得による支出	18	6
無形固定資産の取得による支出	0	0
貸付金の回収による収入	0	1
敷金及び保証金の差入による支出	2	30
敷金及び保証金の回収による収入	6	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>22</b>	<b>42</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	108	115
少数株主への配当金の支払額	34	57
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>143</b>	<b>173</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	47
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	116	157
現金及び現金同等物の期首残高	1,986	2,081
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,870	1 2,238

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日至平成27年2月28日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	該当事項はありません。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日至平成27年2月28日)	
(会計方針の変更)	該当事項はありません。
(会計上の見積りの変更)	該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日至平成27年2月28日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日至平成27年2月28日)	
該当事項はありません。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
未成業務支出金	133百万円	178百万円
貯蔵品	1百万円	2百万円
計	135百万円	180百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
役員報酬	80百万円	77百万円
給料手当	103百万円	95百万円
賞与引当金繰入額	11百万円	12百万円
退職給付費用	1百万円	0百万円
役員退職慰労引当金繰入額	5百万円	5百万円
減価償却費	3百万円	3百万円

2 固定資産除却損の内訳は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
その他(器具備品)	0百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
現金及び預金	2,172百万円	2,516百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	302百万円	277百万円
現金及び現金同等物	1,870百万円	2,238百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月28日 定時株主総会	普通株式	107	27	平成25年8月31日	平成25年11月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年9月1日 至 平成27年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月27日 定時株主総会	普通株式	115	29	平成26年8月31日	平成26年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年2月28日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年2月28日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	21円77銭	46円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	87	186
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	87	186
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,996	3,996

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 4月14日

株式会社ブラップジャパン  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋 山 茂 盛

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 中 量

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブラップジャパンの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年12月1日から平成27年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ブラップジャパン及び連結子会社の平成27年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。